

# 平成 28 年度弘前大学グローバル人材育成事業モデル事業

## 学 生 市 民 等 協 働 プ ロ グ ラ ム 報 告 書

申 請 者	所属部局・職名	大学院地域社会研究科・准教授
	氏 名	平 井 太 郎
事 業 名	加工用リンゴ収穫機械化プロジェクト	
事業の概要とその成果		
<p>【構成メンバー】 7名</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ チームリーダー・指導教員（大学院地域社会研究科）平井太郎（准教授）</li><li>・ 参加学生（大学院地域社会研究科）1名（博士課程）  〃（人文学部）2名（3年生）</li><li>・ 市民，企業人（ササキコーポレーション）1名</li><li>・ 市民，企業人（白神バイオエネルギー）1名</li><li>・ 市民，企業人（白神アグリサービス）1名</li></ul> <p>【実施期間】 平成28年9月7日～平成28年9月11日</p> <p>【事業概要とその成果】 平成28年度農水省・革新的技術開発・緊急展開事業「加工用りんご低コスト収穫・管理技術の開発」を展開すべく、院生・学生と地域の共同研究者とともに、すでに技術が導入されているドイツの農業者、機械業者、流通業者等と意見交換を行った。 まず9月8日、デュッセルドルフ市カールス・プラッツマルシェで、ドイツでの一般的なりんご流通の状況を直接確認した。さらに、近郊のムンコーフ社で、自動箱詰め機能付き収穫作業台を確認し、担当者とその性能について意見交換を行った。 次いで9月9日、マンハイム市のジョン・ディア社グローバル基幹工場で、果樹園地でも走行できる低床・高馬力のトラクタの有無を確認し、担当者と日本への導入可能性について意見交換を行った。さらに、フランクフルト市近郊トレビューア村のオブストラウ・ルーカス氏の農園を訪ね、りんごの収穫・調整、剪定などの作業、りんご加工品を主体とした農家レストランの運営、季節労働者滞在施設向けのバイオマス・ボイラの導入などについて観察と意見交換を行った。 最後に9月10日、デュッセルドルフ市内のケーゲル社で、前掲のバイオマス・ボイラの性能について担当者と意見交換を行い、同じ市内の日本産農産物販売店でコメをはじめとする輸出品の価格動向や販売実績について担当者と意見交換した。</p>		

9月8日

Dusseldorf 市 Carls Platz のマルシェでの観察・聞き取り



Munckhof 社 での聞き取り、工場観察



9月9日

Mannheim 市 John Deere 社 欧州基幹工場での聞き取り、観察



Frankfurt 市近郊 Trebur 村 Obstbau Lukas 農園での聞き取り、観察





9月10日

Dusseldorf 市 Kegel 社でバイオマスボイラにかんする聞き取り



Dusseldorf 市日本産農産物販売店で観察、聞き取り

